

オーストラリアの文化に触れた 10 日間

藍住中学校 長崎 美南

私は、このオーストラリアへの海外派遣事業を経て、本当にたくさんのことを学びました。

日本を出発する日、家族と離れることが不安で不安で仕方ありませんでした。でも、これから 10 日間一緒に過ごす友達や先生、添乗員さんの顔を見ると、さっきまで感じていた不安もすっかり消え、オーストラリアでの生活にわくわくしていました。

オーストラリアに着いて、ホストファミリーの方と会ったとき、みんな優しく出迎えてくれました。最初は慣れない環境で少し緊張していましたが、日本のお土産をプレゼントすると、大喜びしてくれてとても嬉しかったです。オーストラリアの生活は、シャワーや寝る時間など、日本と違うところがたくさんありました。

次の日、初めてオーストラリアの学校に登校しました。英語の授業では、分からない単語ばかりで焦りましたが、先生が優しく背中を押してくれました。だから、自信を持ってチャレンジすることができました。発表が上手くできると、先生がお菓子やキーホルダーをプレゼントしてくれて、すごく嬉しかったです。私は、授業と授業の間に「ティータイム」というお菓子を食べたり、バレーボールをしたりする時間があることにも驚きました。オーストラリアで友達ができるか分からなかったけれど、隣に座っていた女の子に話しかけると、すぐに仲良くなれました。日本の学校で習った英語を使っても上手く伝わらなかったり、上手く聞きとることができなかつたりしました。でも、みんな優しく聞いてくれたり、分かりやすい英語で話してくれたりして積極的にコミュニケーションをとることができました。午後のプログラムではダンスをしました。言葉が通じなくても、みんなと一緒に楽しむことができました。



私は、ホームステイ先での生活もとても心に残っています。子ども達とゲームをしたり、ホストマザーとスーパーに行ったりしました。

休日には、ホストファミリーの方と野生のイルカを船に乗って見ました。その他にもサメを触ったり、ビーチに行ったりしました。日本ではめったにできない貴重な体験をたくさんすることができて、あっという間に1日が終わってしまいました。

学校では、最終日の金曜日に文化交流発表会がありました。クイズや阿波踊りを披露しました。私はクイズの担当で、「大きな声で堂々と発表する」という目標を達成することができました。お別れの時間には、ずっと気にかけて、一緒にいてくれた友達とたくさんお話をしました。お別れが悲しくて、みんなで泣きましたが、オーストラリアの友達が優しく抱きしめてくれました。

私は、この海外派遣で人の優しさにたくさん触れることができました。また、苦手だったコミュニケーションをとることや大きな声を出すことを克服することができたと思います。

このようなすばらしい機会を設けていただいたことに本当に感謝します。また、後押しや準備をしてくれた家族にも感謝でいっぱいです。この貴重な体験を生かして、人の役に立てるよう、より一層頑張ります。

